



2020年2月21日

各位

会社名 株式会社 コックス  
 代表者名 代表取締役社長 寺脇 栄一  
 (コード番号: 9876 JASDAQ)  
 問合せ先 取締役経財・物流本部長 細川 武志  
 (TEL: 03-5821-6070)  
 当社の親会社 イオン株式会社  
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
 (コード番号: 8267 東証第1部)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年2月期(2019年3月1日~2020年2月29日)の通期業績予想について、2019年4月10日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 2020年2月期(2019年3月1日~2020年2月29日)連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	19,000	150	300	30	0.36
今回修正予想 (B)	17,200	△600	△450	△750	△27.19
増減額 (B-A)	△1,800	△750	△750	△780	—
増減率 (%)	△9.5	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2019年2月期)	19,127	△1,349	△1,121	△1,650	△59.82

## 2. 修正の理由

当期は上半期において、基幹事業 ikka が市場のニーズを捉えた商品が提供できなかったことと重点販売商品の数量が不足したことにより、売上計画を下回りました。第2四半期以降、売れ筋商品のQR対応(短期生産・短納期)を行ないましたが、既存店客数の回復には至らず、上半期の既存店売上高前年比89.4%に低迷いたしました。

下半期は、上半期の反省を踏まえ、商品計画の修正を行ない、また人員の強化など販売体制の整備を進めた結果、改善基調にありました。しかしながら、店舗特性に応じた品揃えができず、売上が伸び悩み、結果として年間の既存店売上高前年比は94%となり、売上高は当初計画から乖離しました。

一方、接客による正価販売の取り組み強化や、商品調達方法の見直しによる原価低減などを行なった結果、売上総利益率は前年より3.6ポイント改善しました。販管費についても、物流センターの移転など抜本的なコスト構造の見直しによって、当初計画から削減するものの、売上高の減少を補えず、営業利益、経常利益、当期純利益とも公表数値を下回る見通しとなりました。

(注) 上記の業績予想は、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上